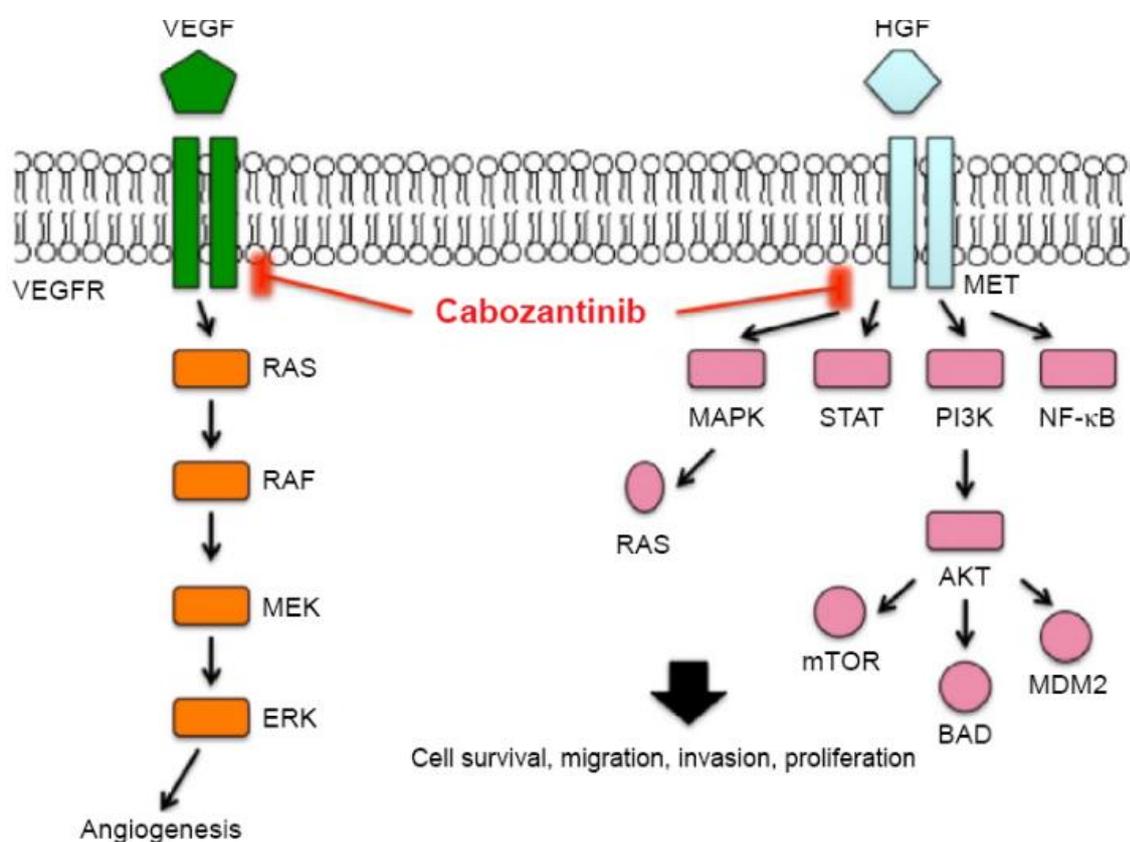


肝臓に対するカボザンチニブ

カボザンチニブ (cabozantinib) により、治療歴のある進行肝細胞癌患者の全生存期間と無増悪生存期間が延長したことが報告され、New England Journal of Medicine 誌に掲載されました。

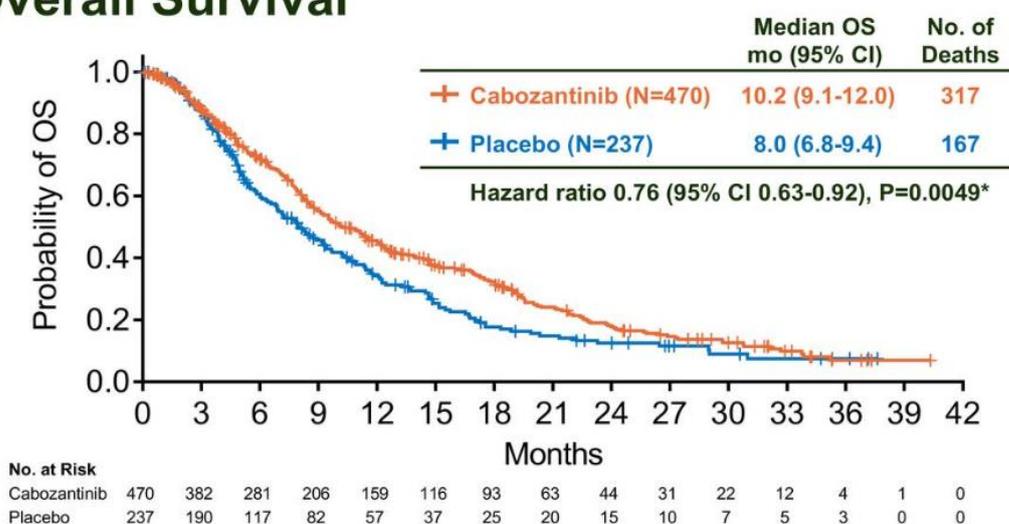


カボザンチニブは、肝細胞癌の進行と、進行癌の標準的な一次治療薬のソラフェニブに対する耐性発現に関与する、チロシンキナーゼ（血管内皮増殖因子受容体 1, 2, 3, MET, AXL など）を阻害します。



全生存期間中央値はカボザンチニブ群 10.2 カ月，プラセボ群 8.0 カ月でありました。また、無増悪生存期間中央値はカボザンチニブ群 5.2 カ月，プラセボ群 1.9 カ月でありました。

Overall Survival



グレードの高い有害事象は 68%に発現。内訳は、手掌・足底発赤知覚不全 17%，高血圧 16%，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ値上昇 12%，疲労 10%，下痢 10%でありました。